

Kiso Urushi Design Project

昭和デザインオフィス

「一般財団法人塩尻・木曽地域地場産業振興センター×昭和女子大学
木曽漆器デザインプロジェクト」

報告書

「一般財団法人塩尻・木曽地域地場産業振興センター×昭和女子大学

木曽漆器デザインプロジェクト」2016年度趣旨

昭和女子大学環境デザイン学科桃園研究室と一般財団法人 塩尻・木曽地域地場産業振興センターと協定書を交わし、「木曽漆器デザインプロジェクト」において、女性の考える漆器デザインを提案し、地域産業の振興に寄与することを目的として産学による協働活動を行う。その活動成果として製品化を目標に昭和女子大学、あるいは双方において展示を行い社会に発信する。互い 協働することから新しい漆の形を提案することを目的とする。

プロジェクト概要

生活の中の漆デザイン__長野県木曽漆__塩尻・木曽地域地場産業振興センターと昭和女子大学環境デザイン学科プロダクトデザインコース学生および桃園研究室との木曽漆デザイン共同振興プロジェクト__漆の生産技術や文化的な価値を学びながら『女性の視点からみた漆デザイン』をテーマに産地生産者と商品共同開発を行った。商品化を積極的に進めるため、デザインした多くの試作から厳選していく。環境デザイン学科__桃園研究室では、プロダクトデザインコース学生と共に長野県塩尻・木曽地域地場産業振興センターおよび木曽漆産地生産者から漆器の生産技術や伝統工芸としての文化的価値を学びながら商品共同開発に取り組んでいる。新しい学年が加わり、次の商品化に向けて検証を進め、ギフトショーにて展示を行った。反響が多くあり今後の商品化への糸口になった。この商品化に向けて多くの職人の技術とその工程はものづくりのこだわりと手仕事の揺るぎない技術がなければ実現しないものである。その歴史ある伝統工芸の伝承は、当然受け継がれていくべき日本の誇るべき財産とし認識されていることは言うまでもない。漆を身近なかたちにする、女性、生活者、使い手の視点から漆のかたちを提案することを目的として『女性の視点からみた漆デザイン』をテーマとしてアクセサリーや生活小物を提供していく。

プロジェクト産学協働

- ・一般財団法人塩尻・木曽地域地場産業振興センター：太田 洋志/百瀬 友彦
- ・山加荻村漆器店：荻村 実
- ・伊藤寛司商店：伊藤 寛司
- ・丸嘉小坂漆器店：小坂 玲央
- ・未空うるし工芸：岩原 裕右
- ・白木屋漆器店：宮原 義宗

- ・昭和女子大学生生活科学部環境デザイン学科桃園研究室：桃園 靖子
- ・昭和女子大学生生活科学部環境デザイン学科プロダクトデザインコース 学生20名：
 - 4年 伊藤 日向子/上條 咲/齊藤 優奈/遠山 夏海/仲山 萌花/橋本 明日香/藤田 名月/山木 美香
 - 3年 石川 有紀奈/岡部 紗季/櫻井 美穂/濱田 香衣/川村 啓花
 - 2年 浅田 景子/佐々木 桃/宮崎 涼香/橋本 麻結/森田 百音/中川 真希/佃 怜南

プロジェクト目標

日本の伝統的な塗料である漆の生産技術や文化的な価値を学びながら『女性の視点からみた漆のデザイン』をテーマとして漆の産地生産者と商品共同開発を行った。木曾の職人さんたちとコラボレーションすることによって女子大生ならではの柔らかな視点のアイデア、デザインで漆の新たな価値を提案していく。また2017年に2月に開催する東京ビックサイト東京ギフトショー2017で作品展示を到達目標として活動を進める。このプロジェクトを通して木曾漆器という伝統工芸品の領域だけでなく広く 漆製品を知ってもらい手にする機会を模索することが大きな目標でもある。漆は日本的なもの、和のものとしては広く知られているが日常的に使う機会を模索する。次の学年のデザイン提案も形になり、実際に漆をかけ試作を行い企画をまとめていく。

活動行程概要

- 4月 漆文化調査と検証 文献ならびに木曾漆器の調査資料を基盤に漆の基本知識を学ぶ
- 5月 ライフスタイルと漆の付加価値についてグループワークによる勉強会
- 6月 生活の中の漆デザインについてコンセプト設計およびスタディー検討
- 7月 木曾漆器視察・デザイン検討 昭和女子大学博物館展示 出展企画 プロトタイプ制作
- 8月 木曾漆器勉強会 長野合宿
- 9月 漆デザインのコンテンツ検討・ブランディング商品企画・設計
- 10月 つくり手との確認会
- 12月 最終設計 パッケージデザイン
- 1月 木地制作・ブランディングデザイン（グラフィックデザイン）・カタログ制作
- 2月 ギフトショー出展
- 3月 商品化のための課題検証と目標設定

2017年2月1日～3日

木曾漆器 × 昭和女子大学 桃園研究室
環境デザイン学科プロダクトデザインコース

日常の愛らしいかたち
生活の中にあるかたち
漆のデザインスタイル提案

[illegible]



パッケージデザイン設計においては、課題を残しているため、改良していく。



展示の様子



アクセサリ部門とキッチン部門にレーベルわけをし商品展開を行った。

